

業界サーーチ

イベント

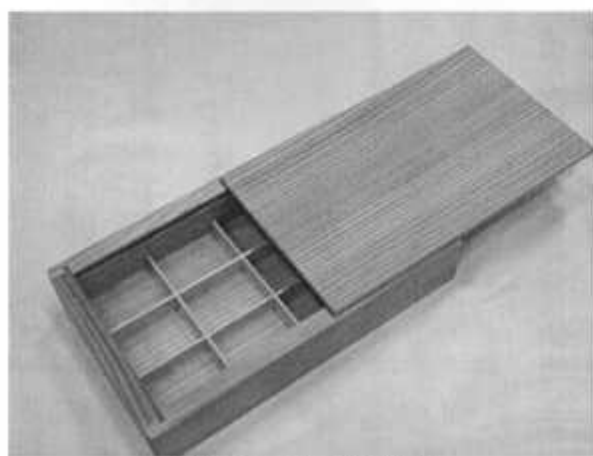
かながわしごと・技能体験フェスタ
ものづくり産業の魅力を発信
木工、工業などが多彩に出展

かながわしごと・技能体験フェスタ2017が7月22日、23日の2日間、神奈川県横浜市西区のパシフィコ横浜展示ホールで開催された。

このイベントは地域の一般消費者に向けてものづくり技能の魅力を発信し、木工、建築、食品加工、重工業などにおける技能を身近に感じて



神奈川県建具協同組合のブース



課題の「たからの小箱」

もらうことを目的としている。オーブンステージでは技能士によるデモンストレーションを企画。一般社団法人神奈川県洋菓子協会によるデコレーションケーキ製作、公益社団法人全日本司厨士協会のフルーツ・ベジタブルカービング、神奈川県広告美術技能士会の似顔絵早描きと看板文字の揮毫が行われた。

会場内では様々な職種が専用のブースを設けて技能体験を指導。技能体験には無料のものと同料のものがあるが、本格的なものづくり体験でも300円程度の費用で受講できる。一般社団法人横須賀三浦建設協会は木製サイコロ作りを実施。玄翁で正六面体に鋸を打ち込む簡単な作業であり、正六面体の面にはサイコロの目の数だけ穴があげられている。神奈川県建設労働組合連合会は「誰でも作れる木工」をテーマに端材を自在に使った木工を企画。端材を釘や接着剤で接合して作る木工作品に親子連れなどが挑戦。製作事例としてリモコンラック、鉛筆立て、道具箱などが示された。産業能率大学はプログラミング体験を企画。子供向けに簡単なコンピュータプログラムを指導した。

一般社団法人神奈川県工業連合会は片流れ小屋組みのデモンストレーションを実施。技能コンクールに出題された課題の組み立てをテーマに上級者用の技能体験を行うと共に、子供用には単管パイプの取り付けと運搬体験を実施した。一般社団法人日本建築大工技能士会横浜支部横浜協同建設会は大工道具の使い方指導。鋸挽き、鉋かけ、釘打ちの体験を通じ、挑戦した来場者はプロが使う道具を理解。また、ブース内では木材の樹種の違いや仕口の種類の解説も展示した。

建具技能に関しては、神奈川県建具協同組合が「たからの小箱」を課題とするものづくり体験の指導を行った。製作指導は1日4回の受け付けで作業に要する時間は30分程度。箱用にキット化した木材を接着剤とハタガネを使って固定し、角部を鉋で面取りする。箱の上蓋はスライド式にして、箱の内部には井型の中敷きを入れた構造であり、製作における難易度は高い。この他、第37回神奈川の名工展では、建具の作品として高田誠氏の組子入り2枚折り衝立、秋山光雄氏の組子の壁掛け障子が展示された。